

令和2年第4回
産業建設常任委員会

所管事務調査報告

期 日：令和2年7月8日(水)
午前10時00分～午前11時46分

調査内容：産業振興課所管事務調査
(1) 桃せん孔細菌病について

出席者：産業建設常任委員5人、傍聴議員1人

説明者：産業振興課長、産業振興課主幹

国見町議会

村 上	一	委員長	・ ・ ・ ・ ・	2
渡 辺	勝 弘	委員	・ ・ ・ ・ ・	3
東海林	一 樹	委員	・ ・ ・ ・ ・	4
佐 藤	定 男	委員	・ ・ ・ ・ ・	5
小 林	聖 治	委員	・ ・ ・ ・ ・	6

令和2年第4回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年7月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

【調査内容】産業振興課所管事務調査

(1) 桃せん孔細菌病について

初めに、台風19号による災害復旧事業（川内地区）について産業振興課課長より、川内富士見橋にて説明があった。現在、災害復旧事業（川内地区）は大部分の補修が完了されている状態であったが、行政区の違いにより未整備の箇所もあった。

その後、井砂善栄様の案内で台風19号により冠水した桃畑の状況を視察した。川内長割地区の鈴木耕治様の桃園は、春先までは順調な生育だったが、現在は8割以上の桃の木が枯れており収量も前年の1割にも満たない状況である。次に井砂善栄様の新割地区の桃園を視察。冠水被害と共にせん孔細菌病による被害も多く、川中島白桃（樹齢6～7年）は通常300個以上実をつけるが20個くらいしか着果されておらず、園地全体の枝に病斑が見られ実にも病斑が移行しており被害は甚大だった。次に、大木戸地区の阿部亨様の園地を視察した。例年せん孔細菌病の発生は少ないが今年は多く発生している。あかつきに関しては、病斑の着いた実は既に摘果されていたが、園地内の他の品種については、病斑が移行している実もみられた。川中島白桃は春の異常気象により着果量が前年の半数くらいであった。

最後にJAふくしま未来国見共選場を視察した。はつひめ・日川白鳳が出荷されていたが、例年の5～6割の出荷量であった。

【感想】

台風19号による冠水被害や穿孔細菌病の被害拡大に加え春の異常気象により、例年発生が少ない早生種（はつひめ・日川白鳳など）にもせん孔細菌病の病斑のついた実が多く、中・晩生種を中心に被害が拡大している。品種によっては4割～9割の被害を受けている。今後、行政・JA・共済組合が一体となり救済措置対策を講じていかななくてはならないと思う。

以上

令和2年第2回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年7月9日（木）

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 渡邊 勝弘

【調査内容】産業振興課所管事務調査

（1）桃せん孔細菌病について

産業振興課武田課長、大勝主幹より、台風19号による災害復旧事業の説明を受ける。土砂流入地区だった田、畑は当初の事業計画を変更したが個人的に必要としないためである。ただ、残土は留置きとなっている。

次に、井砂善榮氏の園を視察した。桃せん孔細菌病により、桃の木は既に早期落葉し、果実も通常なら300個ぐらいつくものが20個くらいの収穫しか出来ない状況にあった。

次に、阿部亨氏（大木戸）園の被害状況を視察する。桃せん孔細菌病になったことがなく初めての経験であったようである。地区により発生がバラバラであり薬剤散布を行ったが収穫減少は否めない状況である。

【感想】

「桃せん孔細菌病」の発生が桃生産者にとっては最大の悩みの種となっている。桃せん孔細菌病は薬剤散布のみによる防除が難しく、防除には総合的な防除が必要と考える。風対策、薬剤散布、有袋栽培などの方法がある。特に今回は台風19号の影響により秋口からの土壌が悪く、また地球温暖化によるものなど様々な要因があると考え。町では、菌密度を下げることを目的とする「果樹産地育成対策事業」補助金を行い、国からは「防風網」の補助などがある。薬剤散布が最大の防除であるが、薬剤の金額が莫大な負担増になっている状況である。収穫減少に合わせて薬剤費の負担増による生産者に対する追加の施策を考えるべきである。

以上

令和2年第4回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年7月15日

国見町議会議長 東海林一樹

【調査内容】産業振興課所管事務調査

(1) 桃せん孔細菌病について

最初に、川内富士見橋から見える、昨年台風19号で冠水した場所の復旧状況の説明を武田課長より受け、その後、井砂善栄様の園地に移り昨年の台風で水を被った桃の木を視察した。すっかり枯れてしまった木もあり、枯れないまでもかなり弱っているものもあり、そのような木は実の数は少なくかなりの減収になるとのこと。続いて桃せん孔細菌病の実態を視察し、今年は台風で水を被って木が弱っていたこともあり木によっては1割程度しか収穫できないとのこと。例年は発生が少ないわせ種の「はつひめ」にも発病が確認されており、中・晩生種を中心に被害の拡大が心配される。

次に、阿部亨様園地を視察した。阿部さんの説明を聞きながら視察したが、この園地は台風での水は被っていないにもかかわらず、桃せん孔細菌病の被害がまともで相当の減収になる見込みとのこと。

それにしても桃農家にとって桃せん孔細菌病との戦いは古く未だに特效薬ができないのは本当に残念だと思う。

以上

令和2年第4回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年7月9日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【調査内容】産業振興課所管事務調査

(1) 桃せん孔細菌病について

1. 井砂善栄様 園地 (川内 富士見橋付近)

- 春先の摘果のころまでは特に異常なかったが、その後せん孔細菌病が発生し収量に大きな影響が出ている。桃の木一本に通常は300個の実をつけるが、今年は20個程度でどうしようもない。
- また、昨年10月の台風の影響で、園地の低い所は長時間水に浸かったせいか、実が成長しないで枯れ木状態となっている。

2. 阿部 亨様 園地 (大木戸 自宅付近)

- この辺は桃せん孔細菌病にかかったことがなく、とてもビックリしている。
- 収量はいつもの6割くらいにしかないのではないかな。
生活にも支障が出てくる。
- 個人の力では限界がある。行政に働きかける仕組みが必要ではないかな。

3. JA ふくしま未来共選場 (場長より)

- 今は「はつひめ」の出荷に対応している。例年より3～4割減少している状態である。
- 出荷量の目標は下方修正を余儀なくされるかも知れないが、これから夏場の品種に期待したい。

【意見・感想】

- 桃せん孔細菌病は前からあるということだが、特効薬がなく何とも厄介な病気である。
- 桃農家はいつもの通りやっている。それでも予期せぬ「せん孔病」で苦しめられては不満が募るだろう。農協、製薬会社が知恵を出し合って何とかできないものか、と思うのは素人考えか。

以上

令和2年第4回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年7月15日（水）

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 小林 聖治

【調査内容】 産業振興課所管事務調査

（1）桃せん孔細菌病について

令和2年度国見町川内地区における桃せん孔細菌病の発生状況について、現地にて説明を受け、JAふくしま未来国見共選場にて早生品種の出荷状況など説明を受ける。

さらに、昨年10月の台風19号被害復旧状況も現地視察し、委員各位と現地説明者並びに町当局との意見交換の後、詳細なる説明を受ける。

【感想】

調査に先立ち、昨年10月の台風19号にて被害を被った川内地区の復旧状況について視察した。一部、伊達市管内の道路整備に遅延が見られたが、概ね順調に進んでいると感じた。

では、今回の桃せん孔細菌病についての産業建設委員会事務調査報告を、私も桃生産者の視点から申し述べたい。

まず、この桃せん孔細菌病だが、現地で説明いただいた井砂氏の説明の通りで、昨年の冠水被害後、再度施肥を施し、春先は丁寧に枝病斑の枝を切除し、防除暦を基本に正確な防除をもってしても、この桃せん孔細菌病の大量発生は防げなかった。

確かに今年の場合、梅雨に入り長期にわたる降雨の影響もあるが、生産者は、まさに現在出来る限りの対策を講じており、今後は、桃せん孔細菌病を防ぐ特効薬的な薬剤の開発など、抜本的な対策が必要と考える。

このまま行けば、「国見の桃」だけでなく「福島県北地方の桃」としての産地の存亡にかかわってくると思われる。

薬剤会社が、遅々として特効薬的な薬剤の開発を進めないのであれば、県・国の試験研究機関に開発を強力に促すなどの対策を講じていかなければならぬいかと考えている。

以上